
東方仮面英雄 仮面ライダー×東方

ポケモV3

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方仮面英雄 仮面ライダー×東方

【NZコード】

N3451BA

【作者名】

ポケモ▽3

【あらすじ】

様々な世界を旅してきた、門矢士。

彼とその仲間が今回来た世界は、『弾幕』と呼ばれるルールがある世界だった。

ディケイド組はもちろん、東方のキャラ、火野映司などのライダーも登場します。

大体全員が主役です。

CARD1『士一行、幻想卿へ』（前書き）

はい、色々詰まってるのに投稿しました。
頑張りますね。

あ、ユウスケは空気じゃないです

CARD1『士一行、幻想卿へ』

「ここは、とある世界にある『光写真館』。この写真館…謎の力を持つていて、何故か様々な世界に移動することができる。」

その中には、この世界での役割を終えた士達がいた。

「さあ、次はどんな世界だ…？」

「次はどんな仮面ライダーに会えるんでしょう…ワクワクしますね、ユウスケ」

「その気持ちは分かるよ、夏海ちゃん。だから押さないで…うわーっ！」

夏海に押されたユウスケがぶつかった反動で、写真館にあった背景ロールが回転し、絵が表示された。

表示されているのは…何処かの神社。

「何の世界だ？まあ、行ってみるか

「おい、ちょっと待てよ士一！」

場所は変わり…

『博麗神社』

「上がるわよ、靈夢」

「あら、紫？何の用？」

紫と呼ばれた女が、この博麗神社に住んでいる少女…『博麗靈夢』

を呼んだ。

「異変よ。しかも、かなりヤバイレベルのね」

「はあ…また異変?最近よく起こるわね…」

「でも、今回はいつもよりヤバイわ。

だから、助つ人を呼んでおいたわ」

「助つ人?誰よ」

「それは自分であつて確かめなさい。

それじゃ私はスキマを使って帰るわ」

『スキマ』という能力を使って空間に穴を開け、帰つていいく紫。

「…異変、ねえ…」

靈夢はお茶を入れ、縁側で『助つ人』が現れるのを待つ事にした。

『…博麗の巫女、計画の邪魔となる存在…殺してやる』

何処からか自分を狙つている、本来なら幻想卿にいるはずのない…
ー『カマキリヤミー』がいると知らずに。

『東方仮面英雄 仮面ライダー×東方』

「ここか…次の世界は」
「…つてあれ?士君は?」

「そういえばいないな…おーい…士…」

「おこ…俺ならこじに」

「…「わあ…?」どちら様…?」

「だ、か、ら! 士だつて言つてるだろー?」

少し沈黙する夏海、ユウスケ、士と言い張る人物。
そして…

「…ええええええええええええ! ?
だつて、士君は男ですよ! ?」

「当たり前だろ! ?」

「じゃあ自分の姿を見てみろよ…

一応士だと思われる人!」

「いや、普通に男…」

夏海に渡された手鏡で自分の姿を確認する士(?)。
言葉が出なかつた。だつて…

—そこに居たのは、ピンク色のリボンをしたツインテールで…ピンク色と白色の入った巫女の服を着た、きれいな女だったから。

「…ビューフ! 」とだあああああああああつ…?」

「そんなの知りませんよ私! ?

とりあえず士君なんですね?」

「ああ…一回、写真館に戻る…」

またまた言葉を失つてしまつた。

それもそつだ、今まで写真館だったはずの建物が…

：『門矢神社』という神社になつっていたのだから。

「　「　「写真館がああああああああああああああ！」　」　」

士一行…今回の旅は恐ろしく長くなりそうだ。

- 次は…〇〇〇『オーズ』SIDEプロローグ。

CARD1『士一行、幻想卿へ』（後書き）

はい、とうあえす1話目終了。
若干短いのは気にせず。

少々裏話を。

本当はタイトルが『東方仮面男 仮面ライダー×東方』だつたん
ですが、
士を女体化するにあたって、タイトルと矛盾するので、変更しまし
た。

ではー

CARD2『妖怪とハイターと博覧の巫女』（前書き）

士「どうして俺を女にした？」

すいませんやりたかっただけです。

士「そうか…本編スタートだ。」

CARD2『妖怪とライダーと博靈の巫女』

士達が『門矢神社』の前で騒いでいる頃……
また一人、仮面ライダーが幻想入りしていた……

何処かの森……

そこを、一人の青年が歩いていた。

「こ……？」ついちょっと今まで……アフガニスタンにいたはずなのに？」

青年の名は『火野映司』。

かつて……いや、今も『仮面ライダーオーズ』として戦っている。
彼は、よく世界中を旅している。
本当なら、今『』アフガニスタンにいるはずだが……
どうやら幻想卿に来てしまったらしい。

「明日のパンツがあるのが幸いだよ……
誰かに、ここが何処か聞かないよ」

とりあえず人を探す事にした映司。

すると、森の奥から黒色の服を着た金髪の少女が現れる。

「あ、人……かな……？ここが何処か聞いてみようかな。
あのー！すいませーん！」

呼ばれたのが分かったのか、映司に近づいてくる少女。

映司は、早速ここが何処か聞く事にした。

「君つて、ここが何処か分かる?」

「ここ? ここは幻想卿。『全てを受け入れる場所』よ

「全てを受け入れる場所…か…

じゃあさ、こちら辺に人が住んでる所つてある?」

「質問の多い人間ね…

まあ答えるけど。」

少女説明中…

「つまり、この森を抜ければいいんだね?」

「うん」

「ありがとう! それじゃ」

「…いや、待ちなさいよ」

説明を聞き終わったため、森を抜けようとする映司を呼び止める少女
若干だが、妙なオーラが出ている

「森を抜けようとするのは構わないけど、その前に私の質問に答えて」

「質問…? 別にいいけど」

「あなたは…」

少女…『ルーニア』は映司にこいつ質問した。

「…あなたは『食べられる』人類?」

『博麗神社』。

「…紫の言つていた助つ人はいつ来るのかしら」
縁側でお茶を飲みながら助つ人を待つ靈夢。

「…煎餅でも食べようかしら」

彼女がそう思つた矢先…

…森から、爆発音のような音が聞こえた。

再び『森』。

「…もしかして、弾幕一発で死んじゃつた？」

地面から出た煙を見ながら呟くルーミア。
咳き終わつた頃に、煙が晴れてきた。

しかし…

「あ、あれ…？」

…そこに、映司はいなかつた。
間一髪で避けたようだ。

「何処に行つたの？」

「ちょ…いきなり妙な物撃つつて…
酷くない！？」

一本の林から映司が現れる。

「へえ、ただの人間が弾幕を避けるなんて…久々に『ご馳走な予感だわ』

「なんか先氣から物騒な事言つてるけど…」

「聞き忘れてたね。君は誰だい？」

「私はルーミア。人間を食べる『妖怪』よ。」

「よ、妖怪…！？」

映司は驚愕していた。

それもそうだ。普通、妖怪と聞いたら…誰でもおぞましい姿をした化け物を想像する筈だ。

それが…こんな少女が妖怪と聞いたら、誰でも驚く。

「まあ、誰でも普通は驚くに決まってるわ。
じゃあ、食べられてくれる？」

「…それは無理だね」「え？」

「俺は、まだ死ぬわけにはいかない。
取り戻したい、仲間がいるから」

そう言ひ映司の手には、オーズドライバーとメダルが握られている。

…戦つつもりの様だ。

「…変身…」

『タカラ！トラ！バッタ！ タツトツバ タトバタツトツバッ』

：幻想卿に、『仮面ライダーオーズ』が現れた。

CARD2『妖怪ヒーダーと博覧の巫女』（後書き）

はい、2話です。

まだあんま東方知らないので、Wiki見ながら執筆します。

映司の言ひつ『取り戻したい仲間』：分かりますよね？

次回：バトルニアと、映司と靈夢の出会いです。
お楽しみに！

CARD3『神社と田舎ごと映画監修』（前書き）

ほぼ初めて書く戦闘シーンなので、
ちょっとヒヤレかもしません…

では本編をどうぞ…

CARD3『神社と出会いと映同居候』

「…やつぱり気になるわね」

靈夢は爆發音の事が気になつて仕方がなかつた。
無視しようとは思つたらしいが、やはり気になるらしく。
もしかしたら、異変の前兆…？
靈夢は、そう考へてもいた。

「よつ、邪魔するぜ靈夢」

「魔理沙？言つておくけど、煎餅は上げないわよ」

博麗神社に、一人の女性がやつてきた。
彼女の名は霧雨 魔理沙。

靈夢と共に様々な異変を解決してきた人間で、普通の魔法使いだ。
そもそも、博靈の巫女の役割は『幻想卿にある結界の管理、異変の
解決』であつて、
魔理沙はある意味、その手伝いをしてゐるのだ。

「靈夢、あの爆發音…」

「貴女も気になつてたの？」

「やつぱり、異変の前兆なのかしら…」

考へる靈夢。

その靈夢に向かつて…

「……靈夢ー危ないー！」

「！？」

突然、靈夢達に向かつて緑色の衝撃波が飛んでくる。幸い、二人共避けることが出来た。

「な、なんだ…！？」

森の茂みから、カマキリを模した怪物が現れる。

・カマキリヤミーだ。

「な、何これ…！？妖怪じや…ない！？」

「…靈夢ーここは私が何とかする！」

お前は森の方に行け！」

「つ…分かつたわ。頼んだわよ」

森の方へと向かつて行く靈夢。

『逃がさん…！』

「おつと、お前の相手は私だぜ？」

カマキリヤミーに弾幕を放つ。

カマキリヤミーはそれを避けて、魔理沙に向かつて行く。

「おつと…簡単にはやられないぜー！」

カマキリヤミーの攻撃を避け、宣言する。

『森』。

そこでは、映司の変身したオーズと、ルーミアが戦っていた。

「何それ…？妙な歌も聞こえたけど」

「歌は気にしないで！」

「まあ、ただの人間ではないのは分かったわ
どちらにしろ食べちゃうけど」

「だから物騒だつてば！？」

『食べる』だとか言つるーミアにシッコミを入れるが、
それを無視してオーズに弾幕を撃つ。

「話ぐらい聞いてよー。」

トラクロードルーミアを攻撃する。
ただし直撃はさせず、肩を少しかかるようにして攻撃する

「はあつー。」

「きやあつー？」

トラクロードルーミアを攻撃する。

「つ…やつぱりただの人間じゃないわね
「そりやあ仮面ライダーなんで…」
「そーなのかー
「じゃあ、これはどうい?」
夜符『ナイトバード』

ルー＝アからオーズに向かつて、円弧状に青色の弾幕が発車される

「えつ……？」

避けよつとするものの、ほとんど当たつてしまい、
攻撃を食らつた反動で地面に落下してしまつた。

「……つ！痛つ……」

「駄目だつたみたいね。」

「じゃあ早速……」

「……いや、まだだからね？」「？」

「？」

「オーズは無限の可能性を秘めている……
まだまだ戦える！」

『タカ！クジャク！バッタ！』

タトバコンボからタカジャバに変身し、タジャスピナーを構える。

「はあつ！」

そこからクジャク光弾を発射し、ルーミアに向かつて放つ。
ルーミアは、オーズが弾幕の様な物を発射したのに驚いてしまい、
避けることが出来なかつた。

「つ……今の弾幕の様な物といい、何か不思議ね……」「よし、このまま……」

オーズは更に攻撃しようとするが……

「待ちなさい」

二人を止めるように声がする。

「…？」

「…」の声…まさか…」

「ルーミア…また勝手に人を襲つたの？」

声の主は、靈夢だった。

「げつ…博麗の巫女」

「げつて何よげつて。とりあえず帰りなさい。
人を襲うのくらい、いい加減やめなさいよ…」

「むう…」

「ふー、とでも言いたそうな顔をしながら帰つていぐルーミア。
いつの間にか変身を解いていた映司が、靈夢に話しかけ始めた。

「あの…助けていただいてありがとうございました。」

「いや、貴方普通に戦つてたじやない…」

「…まあ、そうですけど。」

「まあいいわ。

私は博麗靈夢。貴方は？」

靈夢に聞かれ、映司は答える。

「俺、火野映司って言います。

後、ここらへんに家とかあります？」

「家…？」

「あ、俺この世界初めてで…」

「…つまり、今家がないのね？」
「はい…」

一呼吸置き、靈夢が話始めた。

「それなら、私のところに来なさい。
家、無いんでしょ？」

「えつ…ええええええええええええ！」？」

…映司の叫び声が森に響いた。

- 次回、
デイケイド
DECADESHIDE&RYUKISHIDE。

CARD3『神社と田舎ごと映同題候』（後書き）

はい、CARD3でした。

戦闘シーンは難しいですね！
まあ頑張ります。

次回、某ヤンデレドーラン登場です。
では！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3451ba/>

東方仮面英雄 仮面ライダー×東方

2012年1月10日21時51分発行